

大分天文協会30周年記念行事

種子島門倉崎皆既日食ツアー

顛末記

奈須 栄一

段々と皆既の時間が近づいて来ている。
しかし、相変わらず雲は切れないでいる。
僅かな期待と不安が駆け巡っている。

日食観測に行こうと協会で決めて以来、会員の川端孝幸さんを隊長に選出。

昨年、候補地を種子島として、準備を進めていきました。

協会の30周年記念行事も兼ねて、当協会の山本事務局長を大分の担当をお願いし、着々と進んで行きました。

川端隊長から種子島に視察を兼ねて行ってくると報告があり、派遣という形で行ってもらう事にしました。

観測場所の選定、種子島での観光バスの状況、フェリーの予約等も進めていただきました。
相変わらず、すごい行動力だと感心しました。

天文界では、喜界島を含むトカラ列島での観測地の準備状況がニュースで流れ始めた頃、大分では、ほぼ準備が整っていた。それも格安価格で！

困ったのは、南種子島町側の観測隊受け入れ態勢がなかなか決まらないのです。
やきもきしながらも、日に日に皆既日食日が近づいて来ます。

私の準備といえば、満足な観測機材も揃えられないので、手持ちのニコンD70に300mmで対応するにしました。皆既中のみを撮ることと決めていました。他に双眼鏡ペンタ8×40を観望用として持っていく事にしました。

問題は、格安だったので家内も連れて行こうと申し込んだのだけれども、体調が余り思わしくない事

と、知り合いが居ないこともあって、行かないと言いついたのです。説得するもなかなかうまくいきません。

そこで山本事務局長に話したら、山本事務局夫婦で説得に来てくれたのです。感謝！

で行く事に決定。

前日仕事から帰宅後、慌しく衣類・カメラ等を準備、早朝の出発に備えて就寝。

朝、5時に起床して自家用車で山本事務局長宅まで行き、そこから、両家夫婦で乗り合わせで、大分駅までタクシーで行く。

タクシー料金を支払う段に、家の奥さんは端数を値切ったとのこと。

タクシーも値切りに応じるのだと感心した。

会員の丸野会計さんの手配してくれた貸し切りバスは、新車であの低料金では考えられない豪華さで驚いた。快適そのもの。

別府・玖珠・日田で協会関係者を拾い、熊本で熊本組と合流。

其の時に川端隊長から忘れ物をした事が発覚！

取りに帰る事も検討したが、何とか対処できる解決策を考えてそのまま突き進む事にした。

鹿児島港に着いて、自由時間があり周辺を散策、曇りながらもまあまあ天気暑いです。

「鹿児島に着いたら食べよう」と言っていた、名物『白熊』は、食べられなかったな～。

フェリー乗り場は大混雑でした。

驚いたのは、待合席のイスが右側から日食の様子が描かれていたのです。

かなりの力の入れようだと感心しました。

聞くとところによると開業以来はじめての大混雑との事でした。

高速艇の『ロケット号』は快適で、桜島を左に見ながらの航行です。

種子島が見える頃には晴れ間が覗き、フェリーを降りて、迎えのバスに乗り込み、宿泊先に向かう途中では、夕焼けの太陽が水平線に見えたのです。

明日は必ず、皆既日食が見えるだろうと、確信したのですが・・・。

宿泊先に着いて、期待はしなかったものの、ホテ

ルという代物ではないような・・・宿泊先でした。

私たち夫婦の部屋は恵まれていたらしく、部屋のトイレ・バスは使用できました。

というのも、トイレのドアノブが無かったり、全然なかったりした部屋があったと聞きました。

また、クーラーが壊れて男性陣の大移動があったりしました。

でも格安だから納得?ですね。

夕食時には自己紹介をして頂きました。

一般からの参加者も居たので、顔合わせ方々自己紹介をして頂きました。

夕食後は、川端隊長の忘れ物の代用品を、手の空いたもので製作することに成りました。

厚紙を鹿児島港での待合時間に合間を縫って、天文館に買い物出掛けてもらいました。

厚紙を、めがね状にカットし、日食フィルターを貼り付け、日食メガネを作ったのです。

そうです忘れ物は日食めがねでした。

おまけでカメラ用のもと双眼鏡にも製作してもらいました。

この日は、観測に備えて早めの解散です。

目が覚めて、窓の外の暗闇を見てみると、なんだか嫌な予感がしました。

星空は無く、雨が降ったような後が・・・。

混雑を避けるため、早朝に貸し切りバスで出発します。

どうも雲行きが怪しいのです。

運転手さんに種子島の気象情報を聞くと、『この雲の流れは、晴れますよ』との心強い言葉を頂き目的地へ向かうのです。(慰めの言葉だったのでしょね～)

当所、川端隊長と現地の観光協会との打ち合わせだと、門倉崎の駐車場にバスを駐機することに成っていたのですが、警察の誘導で、手前の広場に移動させられたのです。

それが幸いして見晴らしの良い広場が確保できました。

我々観測隊の専用広場になったのです。

脇にはトイレも完備されて、恵まれた状態になったのです。

岬に向かう別の観測者が『トイレ借りていいですか?』なんて事にも成る始末です。

準備も整い皆既日食に備えは、万端です。

が、しかし一向に雲は切れず、となりの島、屋久島は、雲に包まれて全く見えません。

時より雨が振り出しました。

機材にビニールを掛けたり、非難したり右往左往している間に、第1次接触の時間が来ました。

まだ、太陽が現れない。やきもきイライラします。

刻々と時間は、過ぎていきます。

各地の観測隊に携帯電話で、連絡を取った隊員の情報では、屋久島も雨が降っているとのこと。

九州本島は、雨が上がり欠けた太陽が見えているとの情報です。

携帯電話で気象情報を見ると、梅雨前線が種子島まで大きく蛇行している。『何でこうなるの!』と落胆。

一瞬明るくなった方向を見上げると80%位欠けた太陽が見えました。

あわてて、カメラを向けてシャッターを切るも、またしても雲の中。残念!

第2接触の時間が来ました。

辺りは段々と暗くなります。

バスの方に目をやると、室内灯が、嫌に明るくなっています。

皆既に突入。

辺りは暗く、足元がようやく解かるくらいです。

周囲でざわめきが起こります。

冷気が漂ってきます。

むしろ霊気といった感じです。

天照大神が天の岩戸に、閉じ籠ったときの、暗闇って所でしょうか?

そばに鶏が居なかったので、泣き声は聞けませんが、泣いてもおかしくは無い暗さです。

屋久島から、南の空は真っ暗です。

鹿児島方面の空は、赤くなっている雲が見えます。夕焼けみたいな感じです。

種子島宇宙センターの方向も、同じような状態です。

隣にいる人の表情も余り解からないくらい暗い。

みんな辺りを見回していますが、表情は見えません。

真昼なのに『暗闇の世界』なんとも不思議な世界です。

科学の発達していない昔の人たちは、本当に驚いた事でしょう。

後日、同行した大分大学の中野教授の光量観測の結果を見せてもらいましたが、見事に皆既中の減光が観測されていました。

あっという間に、3分の皆既の時間が過ぎてしまいました。

明るくなるにつれて、段々と現実に戻されていきます。

雲の中ながらも、皆既の下に居る事が出来たのはすごい感動で感激です。

貴重な経験をしたと思います。

皆既日食の終了と同時に、人の大移動が始まりました。

他の観測隊は、続々と待機しているバスに乗り込んでいきます。

我々は、他の観測隊のバスが出口を塞いでいた為、空くまで待機。

ゆっくりと片付ける時間が取れました。

わが隊は、全員が乗車後、種子島宇宙センターに見学となっています。

センターの駐車場に着くとタレントの KANSAI さんが、駐車場をスタッフと歩いているのを見かけ、日食は見られなかったけれど『スター?』を見たみんな喜んでいました。

バスの中やバス周辺で、ホテルから用意していただいた弁当を食べて、センター内を見学。

屋外のロケット広場でロケットをバックに、記念撮影をしました。

それから、バスでロケット発射場の見える場所に移動しました。

そこでも記念撮影。

空は明るく鳴ったものの、相変わらずの曇り空。

『帰路に着く前にお土産を買いたい』ので、どこかに連れて行けと、バスの運転手さんに奥さん方が、交渉している。

お土産屋は、余り無いと言いながらも、このバス会社の経営しているホテルの下売店に連れて行ってもらいました。

種子島は、芋が特産らしく、芋を焼いているおじさんが居ました。暑いのに大変です。

たくさんのお土産を買って、バスに笑顔で乗る奥さん方に脱帽です。

ホテルについて、夕ご飯は、外でバーベキューでの「残念会」でした。



子供達が、はしゃぎ回って脇にあった池の塩ビのホースを、壊してしまった。

ホテルの方ごめんなさい。

皆既日食が見られなかった悔しさを、にじませながらの宴会は、進みます。

でも、皆さん明るい感じがします。

終了後、各自一旦、自室に戻り、あとで見られなかった日食時の、ビデオ撮影会を富成さんの部屋で行うことになり希望者が集まることに成りました。

上映が始まると同時くらいに次々に人が集まり、2次会ムードに成って、部屋中人がいっぱいに成ってきました。

私と家内は、家内の体調不良もあり早々と退散です。

翌朝、聞くとところによると女性陣は、元気良く飲み明かして、男性陣を圧倒したとか?

それに付き合った天文協会顧問は、翌日の体調状態が、かんばしくないようでした。

最終日の朝種子島は晴れです。悔しい!

川端隊長は、前日活躍するはずだった望遠鏡を、太陽に向けて太陽観測をしていました。

黒点の無い太陽が見えます。

『1日ずれると良かったのに』と、みんなが口々に言うのです。まことに残念！

本日は、鉄砲伝来記念館に行く予定です。

それ以外は予定に無く、協会員外から参加した女性陣から海が見たいとの希望で、途中海水浴場に立ち寄って貰うことにしました。

そこは、ウミガメの産卵地であるらしく、時期が外れていたためか、保護柵が堰堤のそばに寄せられていました。

浜辺では、波と戯れる子供たちや若者。

二日酔いで黄昏の状態の人。

貝殻探しに夢中な者。

おしゃべりに夢中な奥さん方。

きれいな海を堪能し、稲刈りの終わった田圃の景色を眺めながら一路、西表市の鉄砲伝来記念館に向かうのです。

鉄砲伝来記念館は、鉄砲伝来を事細かに展示されていました。

フランシスコ・ザビエルとの関係で大分ともゆかりがあるとのことでした。

鉄砲伝来記念館の前のみやげ物店には、結構珍しいものが多くあったが、私は、見るだけにして何も買わないで店を出ました。

そこでも沢山、買い込んだ方々が居たみたいです。

さて、昼飯の段になって、にわか添乗員の隊長は、昼飯まで考えていなかったのです。

観光バスの運転手さんに聞いても、団体で食事するところが無いとのことで、急遽、地元のショッピングセンターに横付けしてもらい、そこで食事をする者と、周辺でするものにと別れて、食事をする事になった。

食事後、ショッピングセンター内で買い物をする主婦隊員が居ました。

九州本島に無いものを探しあてて、集合時間ギリギリまで買い込んでいたのです。

楽しい買い物が出来たようです。

フェリー乗り場に着くと、戸外で太陽にカメラを向けている観光客がいました。

『危険だし、カメラも壊れる』と、思いつつもさし

て注意もしてあげませんでした。昨今、注意して怒られる始末ですから、すると逆襲に会いますものね。

太陽に傘が架かっていたとのことでした。

それにしても危険すぎる。

ターミナルは、ごった返していました。

行きも帰りも大混雑です。

待ち時間が長い。

周囲に何も無いから、時間を潰すのに困りました。

いよいよ乗船。

隊長の手配がよく、2階の後部に陣取ったわが観測隊です。

種子島を出て錦江湾に入るのにさして時間がかからなかったのに、桜島が見えるまでに、かなり時間がかかった感じがします。

桜島の対岸にある鹿児島港に入港します。

下船後、直ちに迎えのバスに乗り込む隊員達。

その途中、名物「さつまあげ」を買いました。

結構、美味かったです。

中津の甲斐さんとは、桜島SAで落ち合う事にし、一旦お別れです。

小倉の高橋さんは、新幹線で帰宅の方が早いとのことで、此处で再会を期してお別れです。

鹿児島城の横をすり抜けて一路、九州道にバスは向かうのでした。蓮の花が、綺麗でした。

桜島SAで、おみやげ目的のお立ち寄りをしました。

最後の買い物場所だけに、かなり買い込んでいましたね～。

心置き無いところで、いよいよ長い帰路に着きます。

中津の甲斐さんらとは、ここでお別れ。

霧島高原を通りかかったとき、ここを野鳥撮影のライフワークとする川端隊長のユニークな解説を聞きながら、鹿児島県をあとにします。熊本県には入ると長く多くのトンネルをくぐる事になります。

とにかく長いトンネルと険しい山と渓谷が見られました。

しばらく走ると、いよいよ川端隊長をはじめとする熊本隊とのお別れが来ました。あわただしく下車。そして出発です。

また、しばらく走り、次の下車は、日田です。

梶原隊員・金子隊員、他2名を降ろします。迎えのご家族に早々の挨拶の後、出発しました。

次は、玖珠IC。休憩方々、1番元気の良かった松木さんとのお別れです。ご両親と愛犬がお迎えに来られていました。

別府SAでは、神さんらを降ろし、いよいよ最終地大分駅に向かいます。

大分駅に到着後直ちに解散しました。

2泊3日の長いようで短かった、種子島皆既日食観測隊の全行程が終了しました。

にわか観光イストラクターの川端隊長には、大変お骨折りいただきありがとうございました。

また、大分天文協会のまとめ役として、力を惜しまず發揮していただいた山本事務局長には、感謝申し上げます。

皆既日食が観られなくて、まことに残念でしたが大分天文協会30周年記念種子島皆既日食観測が、無事に終わる事が出来ました。

楽しいツアーが出来ました。

多くの方々に、この企画を成功させるため、力添えをいただきました。

係わりを持たれた方々に深く感謝申し上げます。

3年後の金環日食も、皆で見たいと心に誓うのでした。

終わり

